北海道の日本海沿岸に打上げられたオニワカメについて

福　原　　英　司*

E. FUKUHARA : *Alaria fistulosa* cast ashore on the Japan Sea Coast of Hokkaido

オニワカメ *Alaria fistulosa* POSTELS et RUPRECHT は日本近海産の最大の海藻として有名であり，“カイロッパ”あるいは“カイロップ”と呼ばれ，北洋漁業関係者になじみぶかい海藻でもある。しかし，日本近海産とはいっても，本種の地理的分布が確認されているのは，旧樺太の二丈岩と千島列島のエトロフ島以北であって，現在の日本本土沿岸では分布が認められていないが，東樺太寒流や千島寒流の南下にともなって，北海道のオホーツック海沿岸や太平洋沿岸に漂流していたり，あるいは打上げられていることは稀ではない。ところが対馬暖流の北上する日本海沿岸で本種が見いだされた記録は一度もなかった。筆者は昭和37年に北海道の日本海沿岸各地に夥ただしい数のオニワカメが打上げられたのを観察する機会を得たので，簡単に報告したい。

昭和37年1月9日から12日まで，北海道の日本海沿岸は大時化がつづいたので，筆者は1月10日の午後に余市町浜中町の沿岸で打上げ海藻を採集したのであるが，翌11日の早朝に再び海岸に出てみると，前日とは様子がことなり，今まで見たこともない大型の褐藻が見渡すかぎりの海岸線に打上げられ，その個体数も海岸線10*m*当りに50個体以上であった。また，その海藻は明らかにアイヌワカメ *Alaria* 属のものであり，しかも中肋は中空で，ところどころに節が形成されているのでオニワカメに同定してよいことがわかった。また長さ1.5～2*m*のものが多く，大部分の個体には胞子葉が形成されていた（第1図）。

第1図　昭和37年1月11日に余市沿岸に打上げられたオニワカメ

その後，2月9日には留萌市の三泊沿岸を調査する機会をえた

*北海道区水産研究所（北海道余市町浜中町）

The Bulletion of Japanese Society of phycology, Vol. XVII, No. 3, 126—127, Dec. 1969

が，やはり多数のオニワカメが打上げられているのを観察することができた。また，当日留萌市に来ていた利尻島と礼文島の水産業改良普及員の佐賀正美，松本博の両氏に標本を見せたところ，両島でも同じ頃大量に打上げられ，稀有のこととして漁民の話題をにぎわしたということである。つづいて3月13日には寿都町沿岸を調査した折にも多数打上げられていた。これらの各地のうち余市町以外は打上げ月日は記録されていないが，漁民の話しを総合すると，各地とも「1月10日前後の時化た日の朝」ということであるから，余市と同じように1月11日の朝と判断して差支えないものと思われる。また，打上げられた範囲も寿都町から礼文島にいたる長い海岸線の一帯におよんだようである。これらのオニワカメが，どこから流れてきたかということが問題となるが，北海道の日本海沿岸で生育している可能性があるかもしれないし，樺太や沿海州から流れてきたことも考えられるが，きめ手となるものはなにもなく，全く不明である。また従来知られているオニワカメに比べると，葉体がはるかに小さく，根の網目状が顕著でない等の理由によって，種の同定に再検討を必要とするかもしれないが，詳しいことは今後の調査にまたなければならない。

その後，同じことがあるかどうかを確かめるために，余市町を中心として，昭和38年から7年間にわたって観察をつづけたが，オニワカメは1個体も発見することができなかった。したがって，昭和37年の例は非常に珍しいということができる。

Summary

This report deals with *Alaria fistulosa* abundantly cast ashore in wide range along the Japan Sea coast of Hokkaido on January 11 th 1962. This is the first record in this district. It is very interesting that this fact never occured for 7 years since 1962.